

○ 日本青年を「国際社会・地域社会で活躍する次世代グローバルリーダー」に育成することを目的に、国際的課題についてのディスカッション能力の向上や国際社会での実践力の向上を図る。

○ **事業の特徴**

- ・ 高い人材育成効果 : 外国青年との密度の濃い議論を通じた実践的コミュニケーション能力、リーダーシップ等のスキル向上
- ・ 人的ネットワーク : 国内外の優秀な各国青年との絆を生涯にわたり形成。同窓会を組織し、社会貢献活動などに参加
- ・ 国事業としての特色 : 各国元首など要人表敬のほか、相手国政府による質の高い訪問プログラム

○ 子供・若者育成支援推進大綱（令和3年4月6日 子ども・若者育成支援推進本部決定） 抄

（1）グローバル社会で活躍する人材の育成
（国際交流活動）

若者の国際理解を促し、グローバル化に対応したリーダーシップ能力、異文化対応力を育成するとともに、日本人としてのアイデンティティの確立を図るため、国内外の青少年の招聘・派遣等を通じた国際交流の機会を提供する。

（※）若者： 思春期*、青年期（おおむね18歳からおおむね30歳未満まで）の者。施策によっては、ポスト青年期の者（青年期を過ぎ、大学等において社会の各分野を支え、発展させていく資質・能力を養う努力を続けている者や円滑な社会生活を営む上で困難を有する、40歳未満の者）も対象とする。

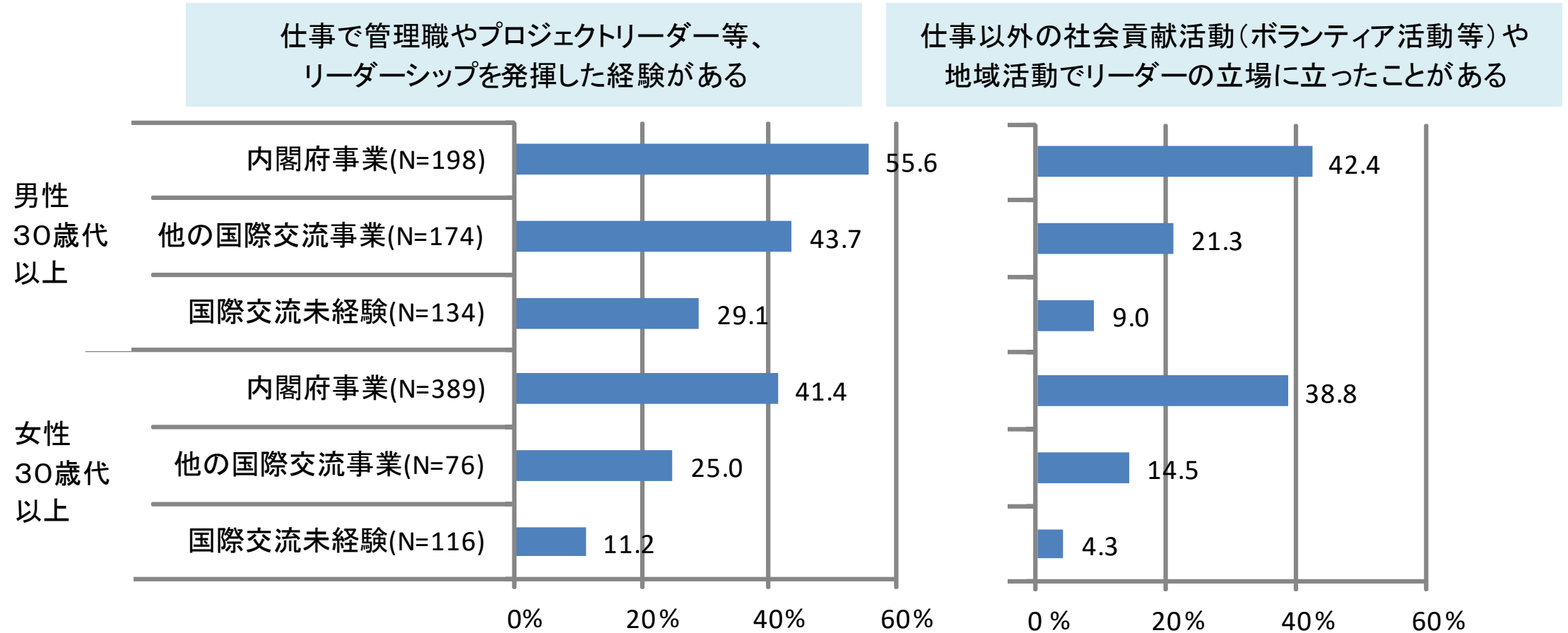
* 思春期の者は、子供から若者への移行期として、施策により、子供、若者それぞれに該当する場合がある。

事業の目的（令和3年度行政事業レビューシート）

- ① 青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神やリーダーシップを持った青年を育成する。
- ② 事後活動として、青年の社会貢献活動等による活躍を促進する。
- ③ 国境を越えた青年相互の友好と理解を促進し、長期にわたる緊密な人的つながりを形成する

青年国際交流事業の評価（①グローバル人材の育成）

仕事や仕事以外の活動においてリーダーシップを発揮した経験<性年齢（就業者のみ）別>



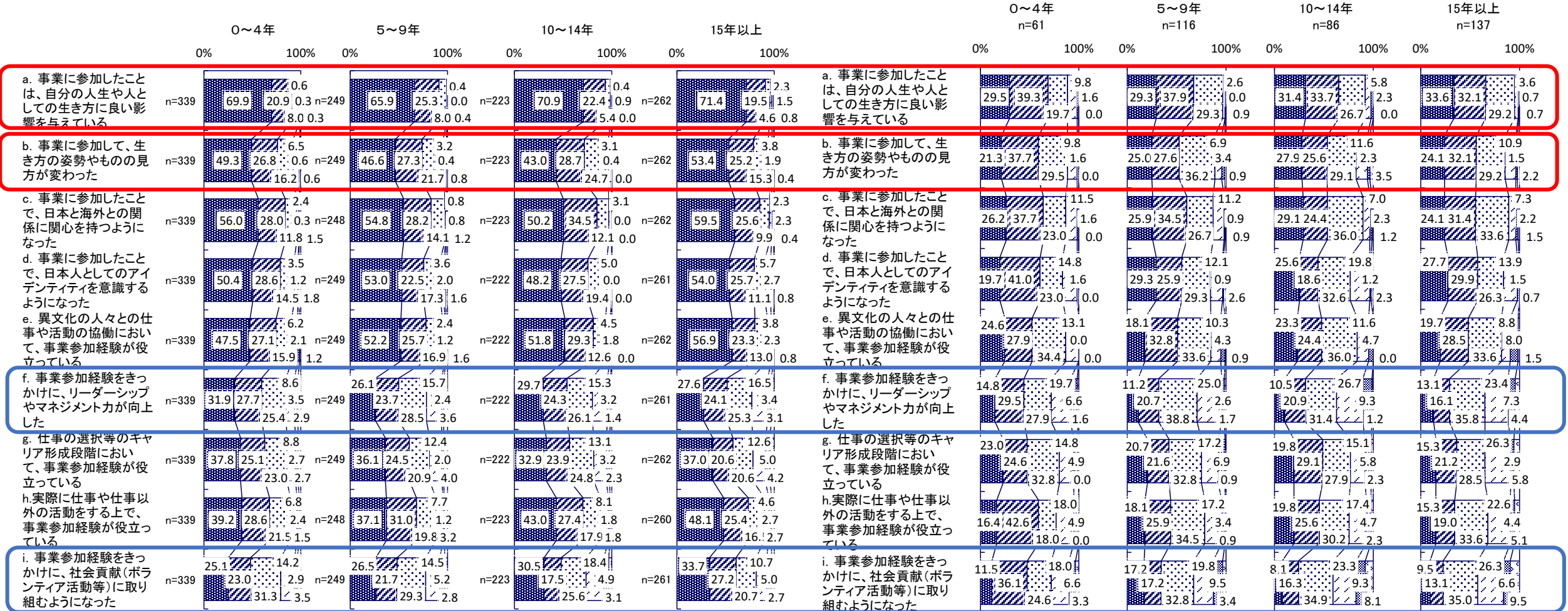
- (備考) 1. 調査対象：①内閣府青年交流事業参加者、②他の国際交流事業参加者、③国際交流未経験者
 2. 調査方法：①調査対象(平成6年～25年の内閣府青年国際交流事業参加者)に対して、WEBアンケートの回答を依頼
 ②③WEBモニターからスクリーニング調査によって、該当する調査対象者を選定し、WEBアンケートの回答を依頼
 3. 他の国際交流事業は、2週間以上2か月以下の国際交流。

青年国際交流事業の評価 (①グローバル人材の育成)

事業参加による人生やキャリアへの影響<参加からの期間別>

【内閣府事業参加者】

【他の国際交流事業参加者】

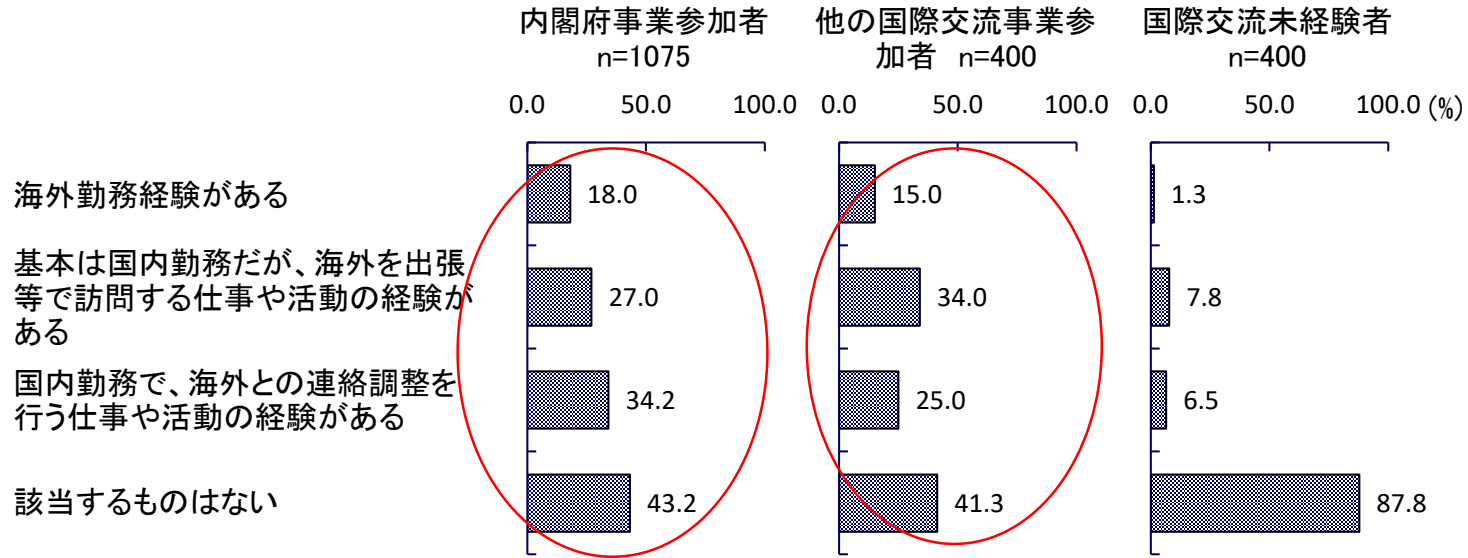


非常にそう思う
 そう思う
 ややそう思う
 あまりそう思わない
 そう思わない
 全くそう思わない

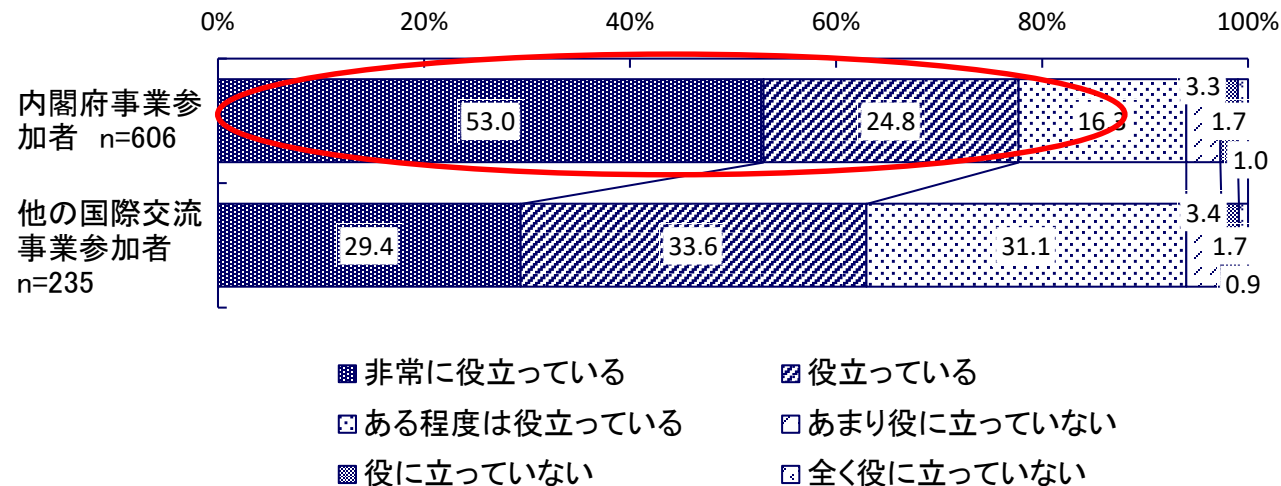
非常にそう思う
 そう思う
 ややそう思う
 あまりそう思わない
 そう思わない
 全くそう思わない

青年国際交流事業の評価 (①グローバル人材の育成)

【事業参加後のキャリア】海外勤務その他グローバルな活動の経験

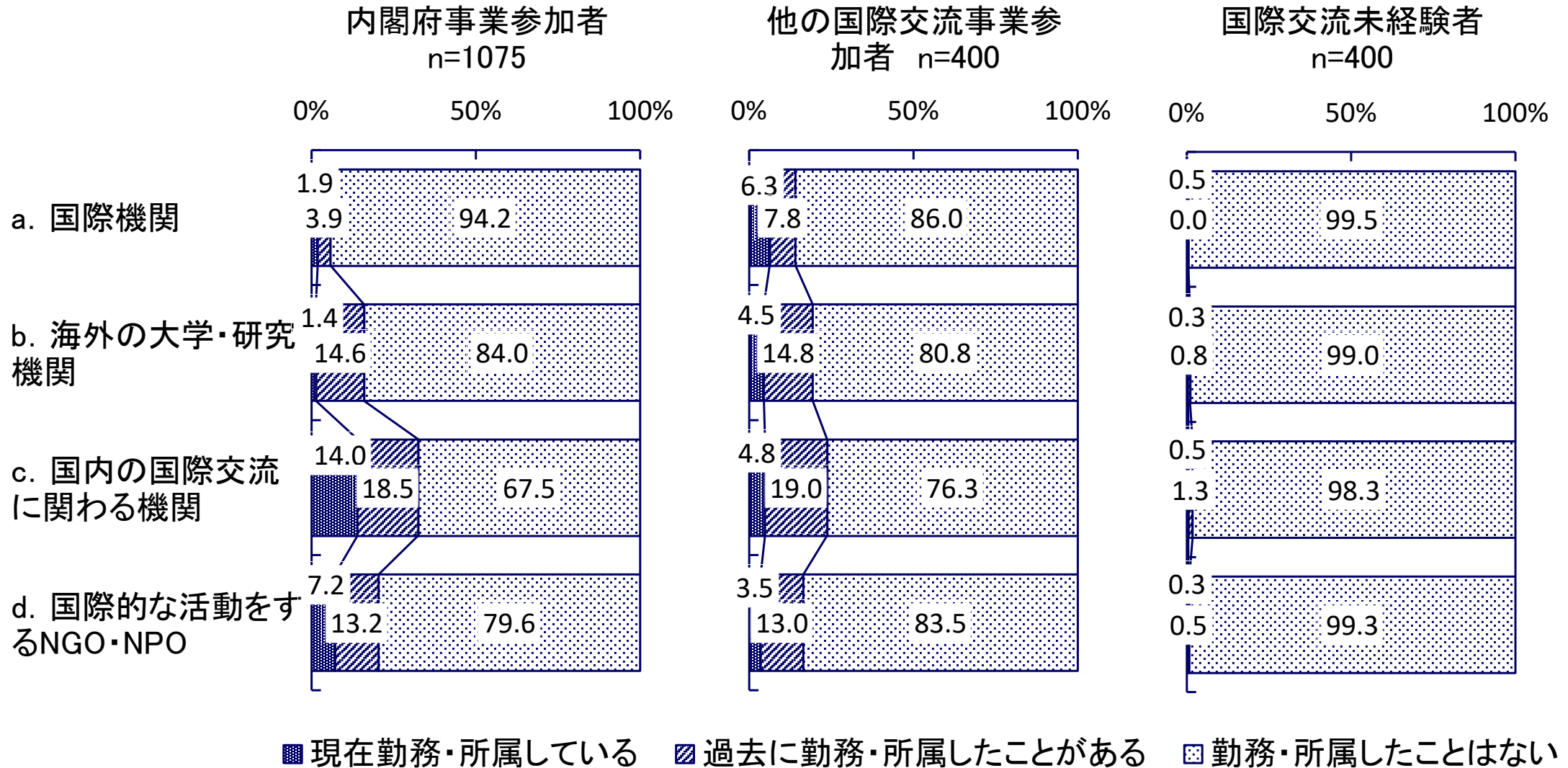


海外勤務その他グローバルな活動の経験に関して事業参加経験が役立っているか



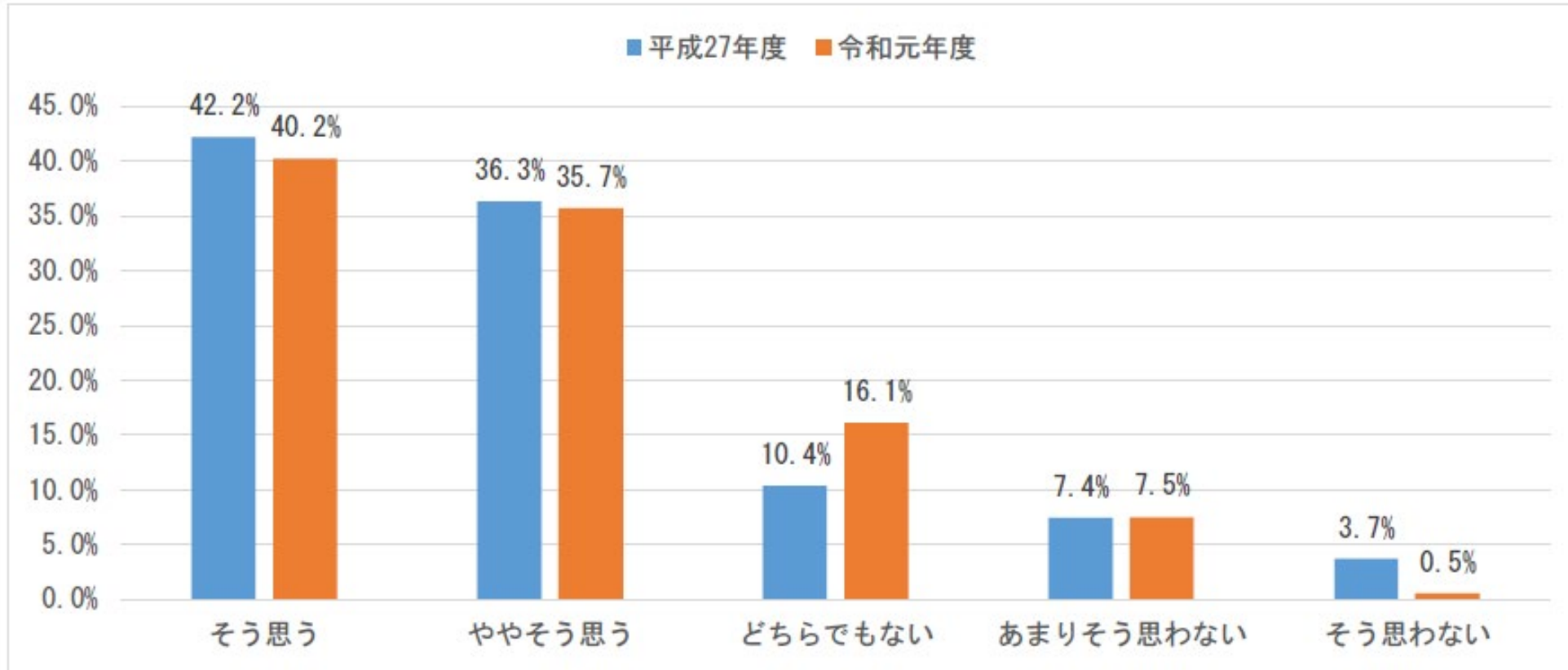
青年国際交流事業の評価（①グローバル人材の育成）

【事業参加後のキャリア】 国際的な機関・団体への勤務・所属の経験



青年国際交流事業の評価（①グローバル人材の育成）

事業で得たリーダーシップやマネジメント能力を発揮する具体的な機会を得た

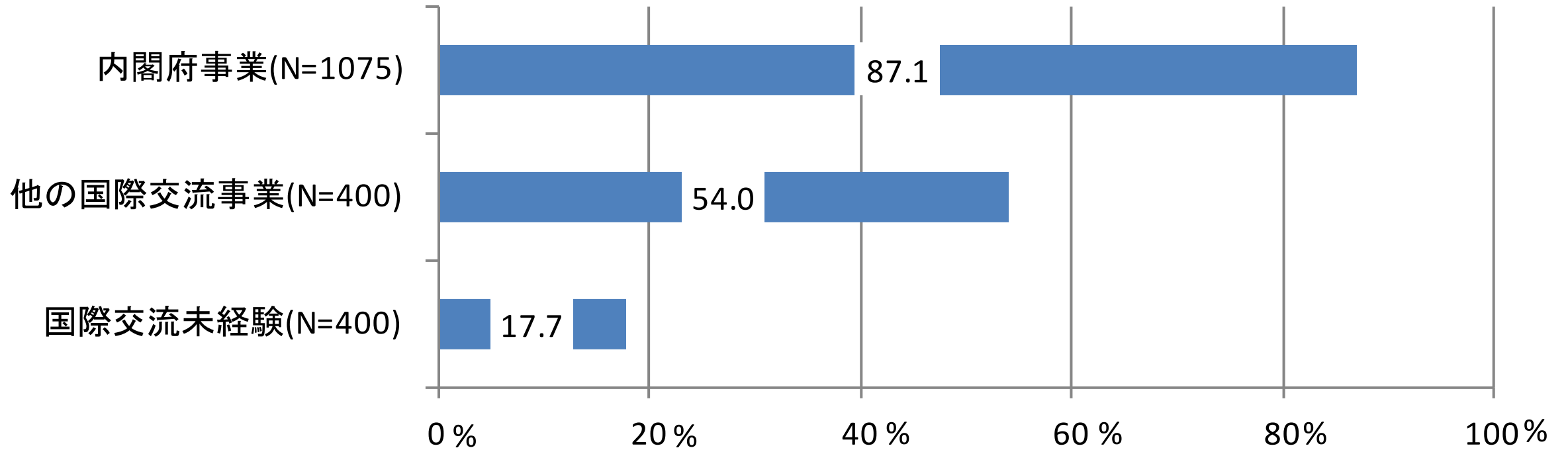


- (備考) 1. 調査対象：平成27年度及び令和元年度内閣府青年国際交流事業参加青年
2. 回収数：平成27年度参加青年 135名／245名(回収率55.1%)
令和元年度参加青年 199名／253名(回収率78.7%)

青年国際交流事業の評価（②社会貢献活動の促進）

【事業参加後のキャリア】

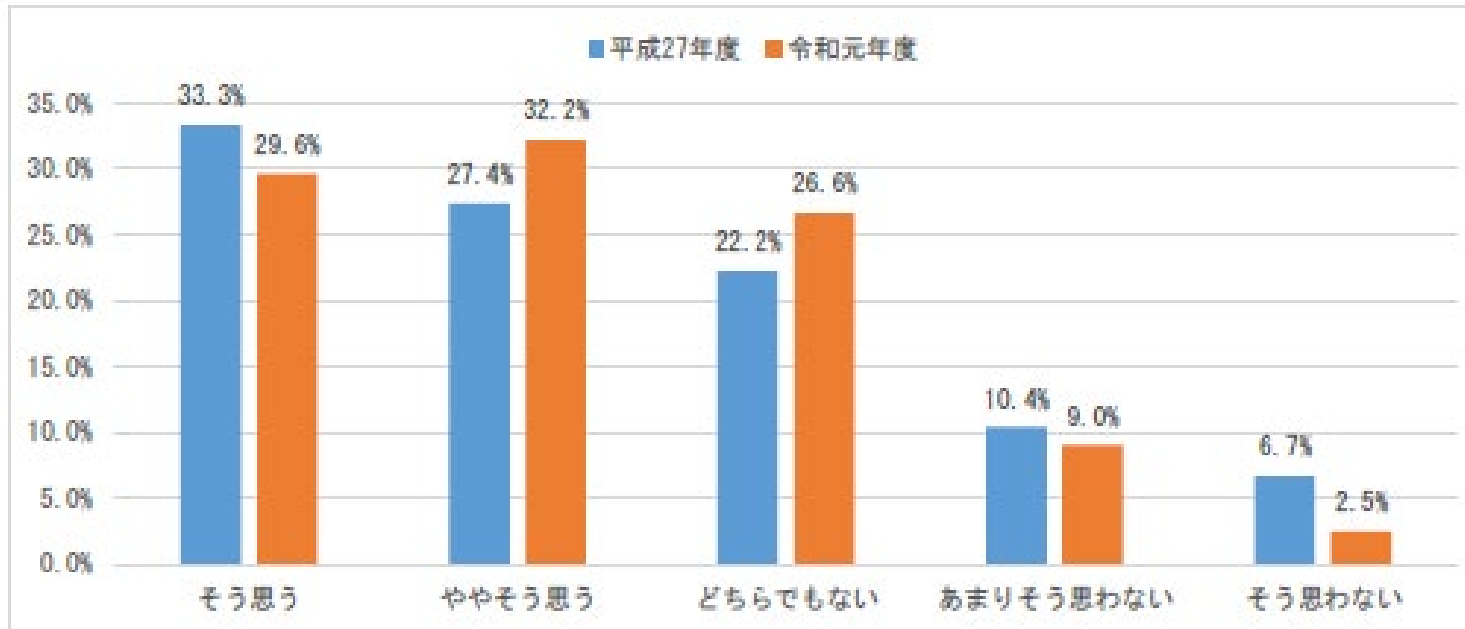
社会貢献活動に現在または過去に関わったことがある



- (備考) 1. 調査対象：①内閣府青年交流事業参加者、②他の国際交流事業参加者、③国際交流未経験者
2. 調査方法：①調査対象(平成6年～25年の内閣府青年国際交流事業参加者)に対して、WEBアンケートの回答を依頼
②③WEBモニターからスクリーニング調査によって、該当する調査対象者を選定し、WEBアンケートの回答を依頼
3. 他の国際交流事業は、2週間以上2か月以下の国際交流。

青年国際交流事業の評価（②社会貢献活動の促進）

事業参加経験をきっかけに社会貢献（ボランティア活動等）に取り組むようになった。



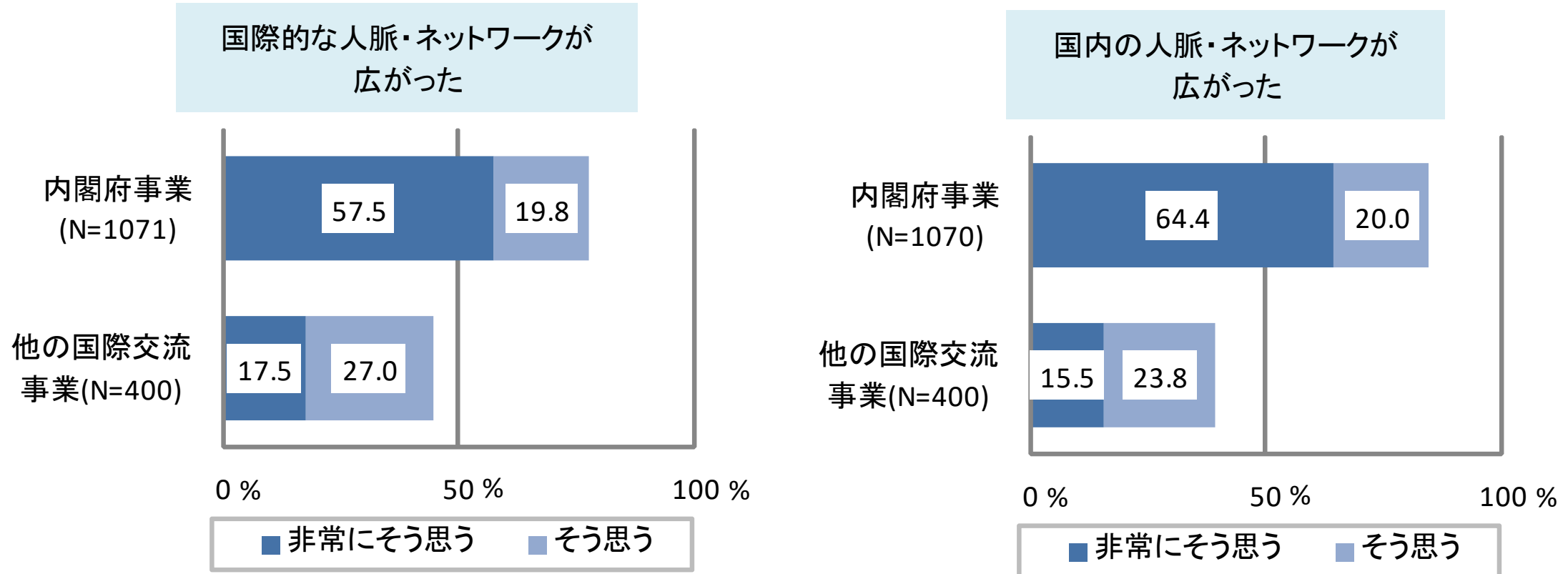
【社会貢献活動の具体的な内容】

- ・事業後にオンライン上の国際交流イベントを共同で開催した。
- ・ミャンマーの日本語教育の手伝いをしてもらった。
- ・フィリピンの小学校にて、平和教育に関するワークショップをフィリピンの既参加青年と共に行った。そこで折られた千羽鶴を長崎の中学生に協力を仰ぎ平和公園に奉納した。
- ・当該国で災害が起きた際の基金の依頼や、教育のボランティアなどの情報、世界で献血を同じ時期に実施するなどの情報を定期的にもらっている。
- ・ユースワークに関する勉強会を一緒に実施したり、私の地域のこども向けのイベントでゲストで動画で登場してもらったりしている。
- ・フィンランドで学んだデジタルユースワークについて、学びを深めるために少数のオンライン勉強会を実施した。スピーカーとして、事後プログラムで日本に来たフィンランド団のメンバー（デジタルユースワーカー）に話を伺った。

- (備考) 1. 調査対象：平成27年度及び令和元年度内閣府青年国際交流事業参加青年
2. 回収数：平成27年度参加青年 135名／245名(回収率55.1%)
令和元年度参加青年 199名／253名(回収率78.7%)

青年国際交流事業の評価 (③グローバルネットワークの構築)

事業参加による人脈やネットワークの広がり

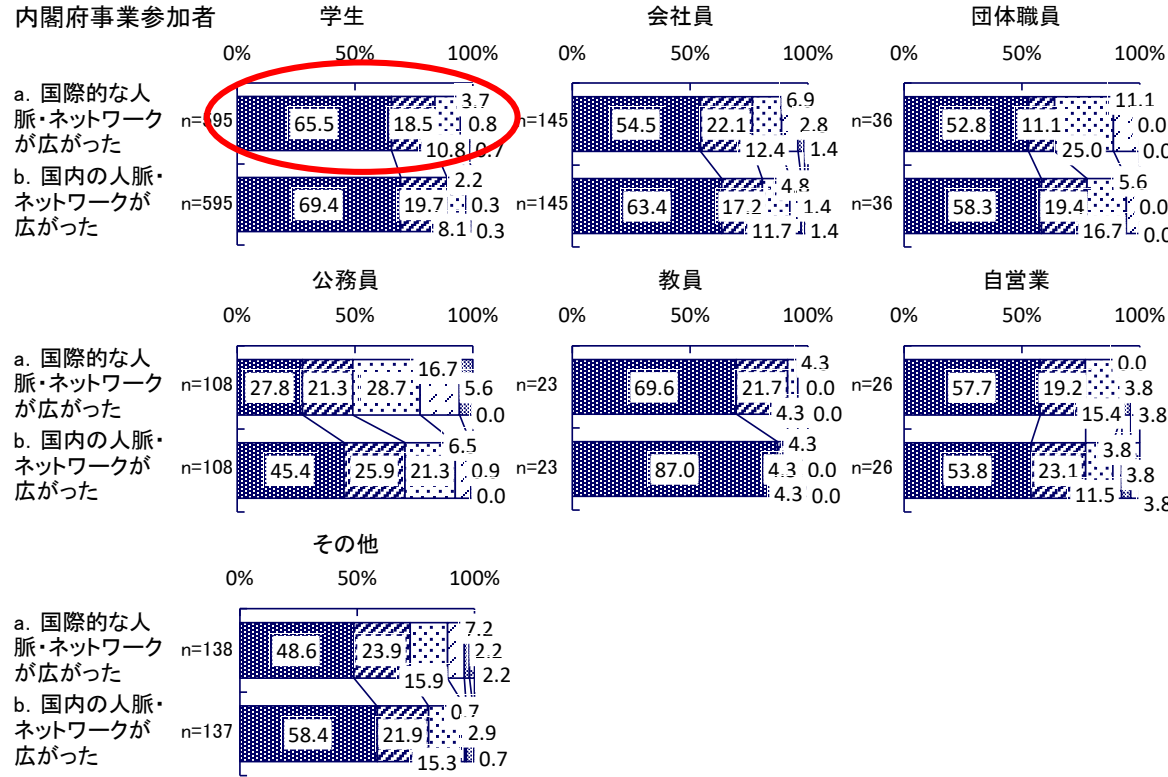


- (備考) 1. 調査対象：①内閣府青年交流事業参加者、②他の国際交流事業参加者、③国際交流未経験者
2. 調査方法：①調査対象(平成6年～25年の内閣府青年国際交流事業参加者)に対して、WEBアンケートの回答を依頼
②③WEBモニターからスクリーニング調査によって、該当する調査対象者を選定し、WEBアンケートの回答を依頼
3. 他の国際交流事業は、2週間以上2か月以下の国際交流。

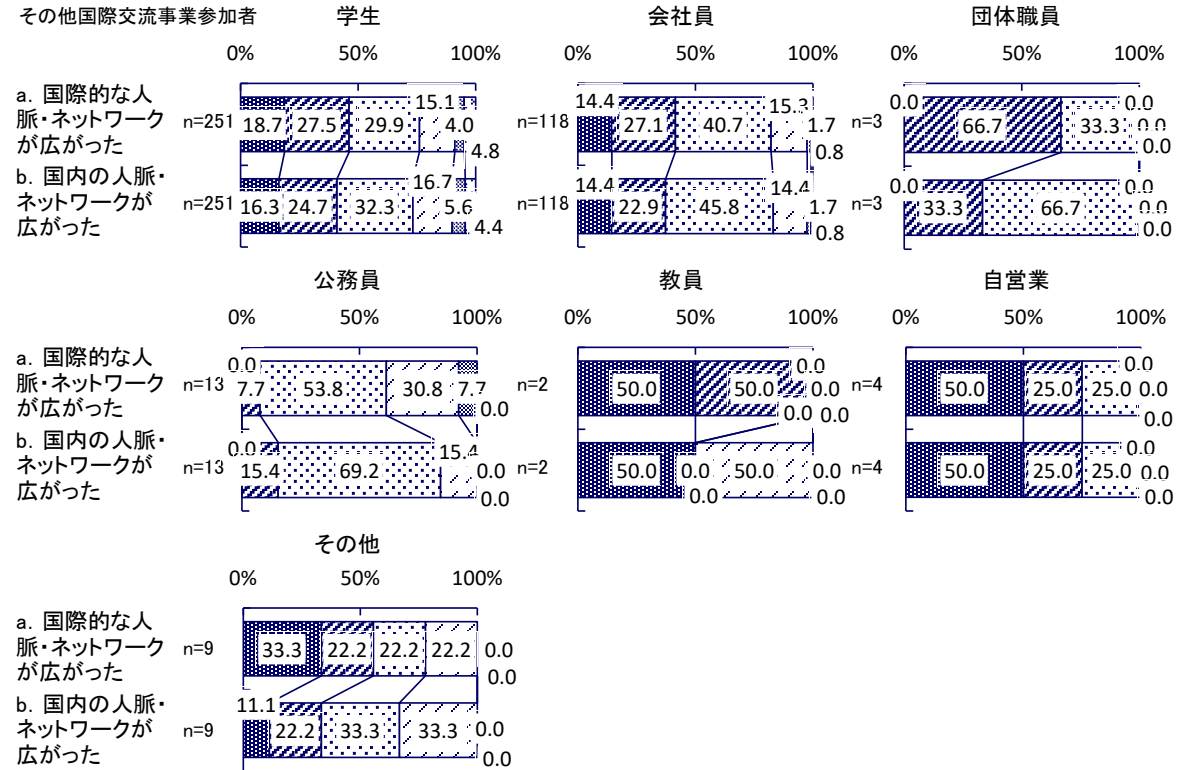
青年国際交流事業の評価 (③グローバルネットワークの構築)

事業参加による人脈やネットワークの広がり<参加時の職業別>

内閣府事業参加者



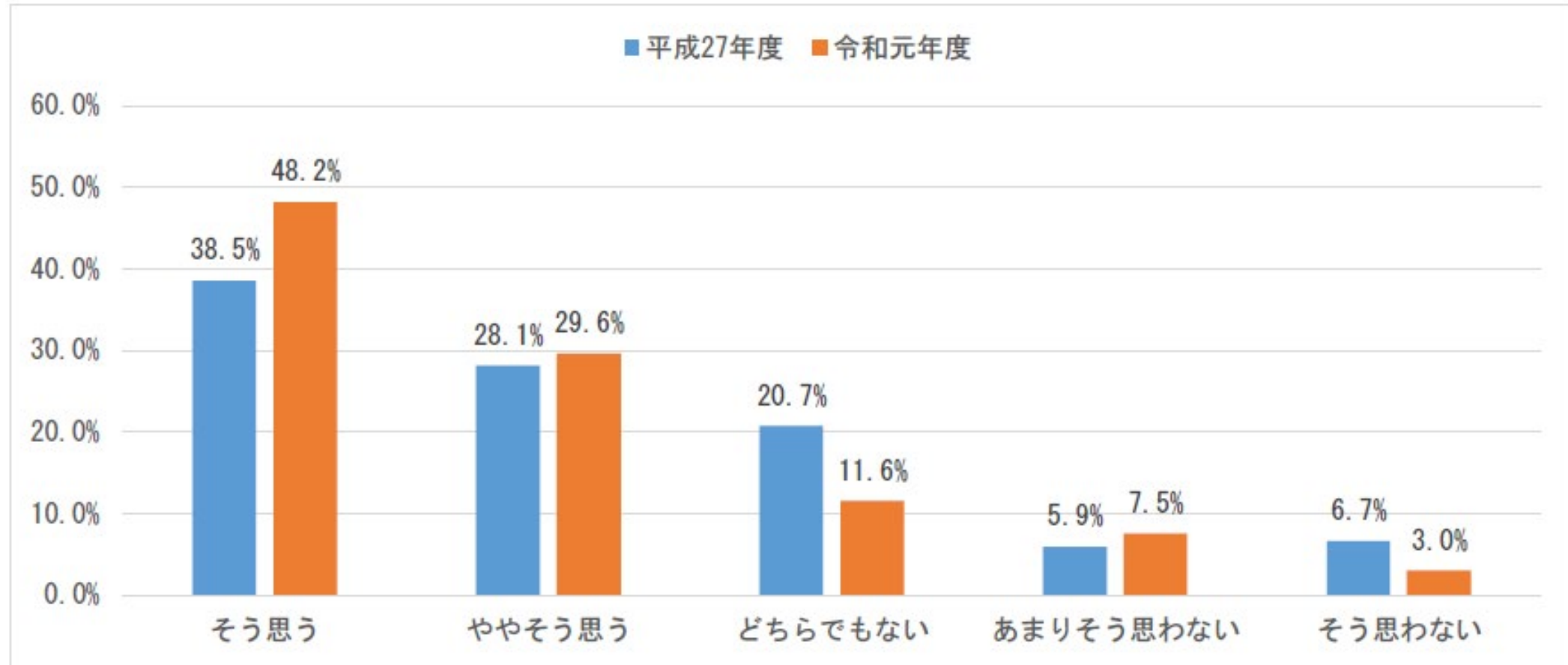
その他国際交流事業参加者



非常にそう思う そう思う ややそう思う
 あまりそう思わない そう思わない 全くそう思わない

青年国際交流事業の評価（③グローバルネットワークの構築）

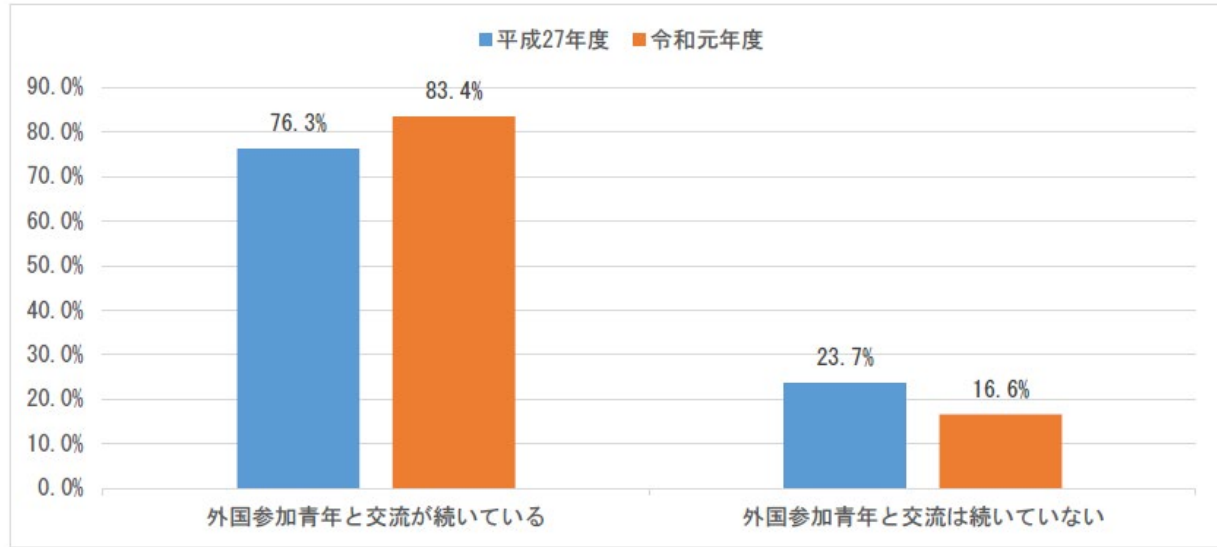
事業で得た国際的人的ネットワークが自分のキャリア形成を行う際に役立っている。



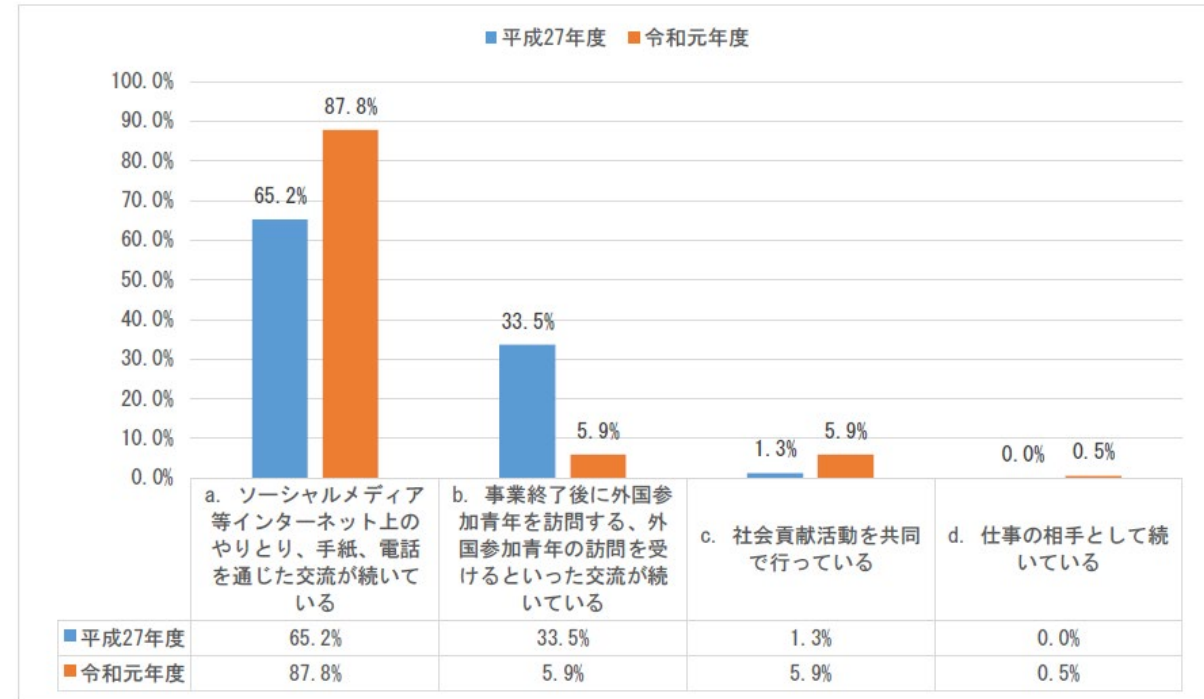
- (備考) 1. 調査対象：平成27年度及び令和元年度内閣府青年国際交流事業参加青年
2. 回収数：平成27年度参加青年 135名／245名(回収率55.1%)
令和元年度参加青年 199名／253名(回収率78.7%)

青年国際交流事業の評価 (③グローバルネットワークの構築)

同じ事業に参加した外国人の参加青年と現時点でも交流が続いていますか。



外国人参加青年との交流の内容



目的 国際社会・地域社会で活躍する次世代グローバルリーダーの育成

目的実現に向けた構成要素

